

令和4年度 第1回運営協議会議事録

開催日：令和4年7月20日(水) 14:15～15:45 於：プレゼンテーションルーム

出席者：【委員（敬称略）】岩瀬絢市、上田えりか、岡崎裕、新納孝啓、田中正視寺脇 久人

【事務局員】長岡校長、杉野事務長、田中教頭、井内首席、宮武首席

【学校関係者】各分掌長、学年主任、初任者

1 はじめに

学校長挨拶（校長）

- ・スクーポリシーの制定準備について
- ・泉鳥取高校との統合についての中間報告
- ・委員紹介
- ・協議会会長・副会長選出

会長は 新納 様

副会長は 岡崎 様

2 連絡及び報告

(1)教育委員会規則の改正に伴う実施要綱の改訂（教頭）

大阪府教員委員会規則の改定が行われ、「同一の委員が連続して6年を超えて任命しないものとする。」が削除された。

(2)年間行事計画について（教務部）

- ・昨年度や一昨年度はコロナで中止となる行事があったが、今年度は予定通りに行事を実施できている。
- ・大きな行事としては、9月末に翔南祭、11月半ばに2年生の沖縄への修学旅行を予定している。しかし、9月、10月に修学旅行を行う学校の中には、行先の見直しを行っているところもあり、本学もどこかの時点で行き先変更等を決断をする必要があるかもしれない。現状は、予定通りに実施予定。

(3)進路指導について（進路指導部）

- ・3年生進路希望調査は、昨年度は就職希望がとても少なく、40人に届かない状況であったが、今年度は61名と例年よりも微増している。
- ・ベネッセ基礎力診断テストとClassiの活用の活性化を進める。基礎学力の低下が課題で、入学段階での習熟度が下がってきている。
- ・打開案の一つとして、今年度よりClassi（授業動画視聴ソフト）を活用し、定期考査の一部にも基礎的な学習内容を盛り込むことを予定している。生徒指導と進路指導を関連づけ、これまでの評定平均値に加え、遅刻や欠席など日常の活動も反映させるなど学校全体で取り組む。
- ・マネープラン説明会を全学年対象に、3年就職説明会を保護者も参加対象にしたり就職筆記テスト対策を実施する。また、求人票のクラウド化しスマートフォンやChromebookで閲覧可能とできるようにする。
- ・ベネッセの分析結果（上田（え）委員より説明いただく）

基礎力診断テストの結果

過去5年間の分析では義務教育範囲得点率が下降傾向にある。

Dゾーンが増加傾向にある一方、Bゾーンの生徒も数名おり多層化している。

R4年度入学生の科目別GTZでは、国語は幅広い成績の生徒がいる一方、数学・英語はDゾーンの生徒が多い。他校では成績が伸びた生徒の表彰を行うといった活動を行い生徒の意欲を高める工夫をしている。

(4)授業アンケートについて（首席）

- ・年2回アンケートを実施し、9項目につき4段階でアンケートに回答する。
- ・結果は学校経営計画の評価指標にも使っている。目標に「すべての項目の平均値を3.1以上で維持する」とある。過去5年では目標を維持している。

(5)外部の専門人材の活用について（首席）

- ・ヤングケアラー支援体制強化事業で、SSW、CCが今年度より配置。SCはこれまでも活用している。またコロナ禍対策として今年度に限り「学習支援スタッフ」を配置できている。
- ・その他、日本語指導にかかる非常勤講師や介助にかかる人材制度も活用している。

3 協議

(1)令和5年度 使用教科書選定理由について（教務部）

「見やすい」といった、視覚表現に優れた教科書が多く選ばれている。また、デジタル教材がついているものが選定されている。

◆質疑応答・意見

（岡崎委員より）

社会福祉基礎の種目の教科書が「介護福祉基礎」になっており、介護実習の種目の教科書も「介護福祉基礎」となっているが、同じ教科書を利用しているのか？社会福祉と介護福祉は別の概念であり、広く一般的に学ぶべき社会福祉で「介護福祉」に限定するのは問題ではないか？

⇒これについては、資料の印字ミスで、社会福祉基礎の教科書が「社会福祉基礎」で設定されていることがわかり会議の最後で修正の報告を行った。

(2)令和4年度 学校経営計画について（校長）

- ・めざす学校像に、泉南地域の普通高校は本校のみとなるため、「中核的」という文言をとり入れた。
- ・泉鳥取募集停止と機能統合にかかる詳細説明。
- ・中期的目標の説明
- ・本年度の取組内容及び自己評価の説明
「確かな学力の育成」「地域に根ざした学校づくり」「進路指導・自己実現」についての評価について。
- ・その他、人権教育、ボランティア活動や部活動加入率は現在27%とアルバイトの重点を置く生徒が多いことに関する説明があった。また、ミスが起こった際に組織として対応する力や働き方対策のための分掌や委員会の人数配分について。

◆質疑応答・意見

（岡崎委員より）

今年度は高等学校教育の変革の年（ICTなど）であるが、観点別評価も大きな改革である。生徒に観点別の評価（A,B,C）の認識をしっかりと行うことが必要ではないか。「学力」という単語の定義として、3観点に基づいた学力評価の意義がしっかりと共有できているか。すべての教員が共通認識として評価の説明ができるか。保護者の立場としては、客観的な数値としてきちんと扱ってほしい。

ベネッセ入学時の基礎力診断テストの結果だけで教員が先入観を持って指導を行ってしまうと「生徒と先生のコミュニケーション」という強みを潰してしまうので活用には注意が必

要。観点が増えたということは、生徒の良い点をすくい取り易い、評価しやすくなったと考えている。

(寺脇委員より)

観点別評価については本格実施から間もないところで、現状の評価基準については検証を行い、妥当性について確認が必要。

学校経営計画で「地域に根差した」の記載があるが、カテゴリに分けて詳細を示すのもよいのではないかと思う。

(校長より回答)

入学してくる生徒が変容していることは承知している。また、一人一台端末の整備も急速に進み、環境も大きく変わった。

観点別評価は、令和3年に教科目で試行した。観点別のA,B,Cの指標は学校ごとで定める事となっており、府として統一されているものではない。評価方法がかわることで必然的に指導方法も変化し、双方向型の授業など増えている。現状は、各教員が試行錯誤している段階。

(教務部長より回答)

生徒、保護者には各観点100点満点で評価していることを文書で通知している。

「観点別の評価」と「評定」が異なるものであることは概ね理解できていると判断している。

(岡崎委員より)

学力観はキーになってくる。「学力」は知識と思いがちであるが、どこかで整理してきっちりとした定義を行うべきであると考ええる。

(寺脇委員より)

観点別評価については、先に実施している中学校と情報共有する必要があるのではないか。「AAA」だが評定が低い生徒が出てこないか懸念している。

(新納会長より)

貴重な意見を参考にして、学校運営計画に記載の通りに今年度の学校経営を進めていただきます。

4 委員より提言、意見交流 等

(田中委員より)

自分は地域住民であるので、地域の良さはよく分かる。大阪の中心地からは離れているが、生徒は皆、光るものも持っているので、それをしっかりと伸ばしていくために、広い目で見てサポートし、チャレンジできる機会を設けてほしい。努力して伸ばせる部分に気づかせてほしいと思う。